



高小だより

津市立高茶屋小学校
平成30(2018)年9月
文責：校長 石川 昌弘

全国学力・学習状況調査の結果について

4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果が7月末に発表されました。この調査は、今年度で10回目になります。今年度は、3年ぶりに理科も実施されました。

国語、算数ともにA問題は主として「知識」に関する問題で、B問題は主として「活用」に関する問題です。全国的な傾向としては、学力の底上げ傾向が続いており、過去と比べると地域差の縮小が進んできています。

下の図は、国、三重県、津市の平均正答率を比べたものです。三重県は国をわずかに下回っていますが、県と津市はほぼ同じ水準です。

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
全国	70.7%	54.7	63.5	51.5	60.3
三重県	70	54	63	50	59
津市	71	54	62	50	58

さて、高茶屋小学校の結果ですが、残念ながら国や県、市の平均には届きませんでした。今後も引き続き、指導法の工夫・改善等を図っていきたいと思います。

高茶屋小の特徴 『国語』では

今年度の国語Aでは12問中5問が漢字の問題でした。今年度出題された漢字の問題は、同じ漢字を使う文を選ぶというものです。

ア せい造の「せい」と同じ漢字を使うのはどれか

- 1 せい限時間に気をつける。
- 2 新せい品の価格を調べる。
- 3 道具箱の中をせい理する。

イ せつ備の「せつ」と同じ漢字を使うのはどれか

- 1 新しい規則をもうける。
- 2 劇のやくの希望を聞く。
- 3 遠くへボールをなげる。



読み方が同じ漢字は比較的選ぶことができっていますが、違う読み方をする漢字を選ぶ問題は、全国平均を大きく下回っています。国語Aで正答率が低く、また、無解答率も一番高い問題でした。このことから、文の中で正しく漢字を使うということは本校の課題のひとつではないかと考えられます。

国語Bは大問題が3つ（小問題が全部で8問）だけでしたが、読まなくては行けない資料が多く40分の時間ではたいへんだったと思います。特に最後の問題は、ほぼ3人に1人が無解答でした。最後で時間が足りなかったかもしれませんが、伝記を読んで文章の内容を的確にとらえ、自分の考えを明確にしながらか60～100字の制限字数で書くということが難しかったようです。やはり、自分の考えを明確にして、まとまった文章を書くことも本校の課題であると思います。

高茶屋小の特徴 『算数』 では

算数Aでは、円や割合の問題の無回答率が高く、全国平均を下回りました。特に、グラフを読み取り、条件に当てはまるグラフを見つける問題では、全国平均正答率を大きく下回り、無回答率も最も高かったです。基準量、比較量、割合の関係は、以前から本校児童の弱みです。また、図やグラフに表したり、読み取ったりすることについては、授業でも力を入れてきましたが、本校の取組が十分でないことが示されました。今後も、弱みを克服できるよう工夫・改善を進めていきたいと思えます。

3

しおりさんたちの学校は、「進んであいさつをする」と「本をよく読む」の2つのめあてに取り組んでいます。
しおりさんたちは、7月と12月に、2つのめあてについて全校児童625人に対してアンケート調査をし、その結果を下のグラフに表しました。
しおりさんは、グラフからわかることを2つのメモに書きました。

めあて	7月	12月
進んであいさつをする	約570人	約550人
本をよく読む	約50人	約200人

メモ1

- 「進んであいさつをする」約570人
- 「本をよく読む」約550人

メモ2

- 「進んであいさつをする」約50人
- 「本をよく読む」約200人

えりかさんとまさるさんは、しおりさんが書いたメモについて話し合っています。

えりか

メモ1を見ると「進んであいさつをする」のほうが人数が多いです。でも、メモ2を見ると「本をよく読む」のほうが人数が多いですね。

まさる

メモ1では、「進んであいさつをする」のほうが人数が多く、メモ2では、「本をよく読む」のほうが人数が多いのは、なぜですか。

しおり

メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書いているからです。

しおりさんが言うように、メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書かれています。

(1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか、それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。

算数Bでは左の問題が、全国の平均正答率が最も低く、本校児童の正答率も最も低かった問題です。本校児童の無解答率は40%を超えています。メモの情報とグラフを関連づけてどのようなことに着目しているかを書くという問題です。メモ1は、12月の人数に着目して書いており、メモ2は7月と12月の人数の差に着目して書いているのですが、正解以外の答えは、片方のことしか書いていなかったり、全く違う答えを書いたりして、間違えてしまっています。

国語の課題にもつながりますが、しっかり問題の意図を読み取り、文章で表すというところに課題が見えてきます。

高茶屋小の特徴 『理科』 では

今年度は、3年ぶりに理科も実施されました。「太陽の動きと光電池」の問題で、全国平均正答率を上回りましたが、ほかの問題では、下回ってしまいました。特に、最後の問題は、実験方法や結果など、多くの問題文を読まなければならないうえに、実験結果からわかることをまとめるというものでした。

この問題は無回答率も4人に1人と高く、実験から結論を導き出し、文章に表すというところに課題が見えてきます。

今回の結果で、国語の「話す・聞く・書く」の領域や算数の「数と計算」などで、改善した部分も見られました。しかし、まだまだ十分でない部分や弱みも多くあります。学校でも工夫を重ねながら指導していきますので、ご家庭でも家庭学習の支援等をよろしくお願ひいたします。

